

# データポータビリティ、セキュリティ の検討状況

1. データポータビリティの検討状況
2. セキュリティの取り扱いについて

# 1. データポータビリティの検討状況

## データポータビリティの検討範囲と本事業でのスコープ

学習eポータル標準モデルにおいては“学習eポータルの切り替え”および“児童・生徒の転出入・進学”のケースにおいてMEXCBTとツールのデータが引継がれる、ないしは、引続き使用できることをスコープとする

ポータビリティを検討すべき範囲と本事業のスコープ

凡例 ○: 本事業で  
検討するスコープ

移行情報元 ユースケース	MEXCBT	ツールズ		校務支援システム (校務系情報)
		学習eポータルと 接続	学習eポータルと 非接続	
学習eポータル の切り替え	○	○	-	-
児童・生徒の 転出入・進学	○	○	-	-

# データポータビリティの検討範囲と本事業でのスコープ

学習eポータル標準モデルにおいては“学習eポータルの切り替え”および“児童・生徒の転出入・進学”のケースにおいてMEXCBTとツールのデータが引継がれる、ないしは、引続き使用できることをスコープとする

ポータビリティを検討すべき範囲と本事業のスコープ

凡例 ○: 本事業で  
検討するスコープ

移行情報元 ユースケース	MEXCBT	ツールズ		校務支援システム (校務系情報)
		学習eポータルと 接続	学習eポータルと 非接続	
学習eポータルの 切り替え	○	本年度検討の範囲		-
児童・生徒の 転出入・進学	○	○	-	-

本年度は既にxAPI形式で生成・保管されているMEXCBTのログとおよびMEXCBT内で閲覧できるテストレビューを中心にポータビリティの論点について整理した

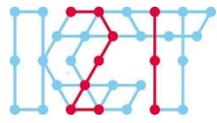
学習eポータル<sup>o</sup>の切り替えを検討する際の基本的な考え方として学習eポータル・ツールズが自由に選択でき、ベンダーロックインを受けないことが重要と考える

### 基本的な考え方

- 自治体・学校が活用するサービスを自由に選択、変更できベンダーロックインを受けないこと

(例)

- 自治体・学校が過去の学習データが見えなくなることを恐れて、利用するサービスの変更ができない状態（ベンダーロックイン）に陥る
- その結果、サービス費用の増大や品質低下の原因になるなど、自治体と事業者が不健全な関係となるおそれがある

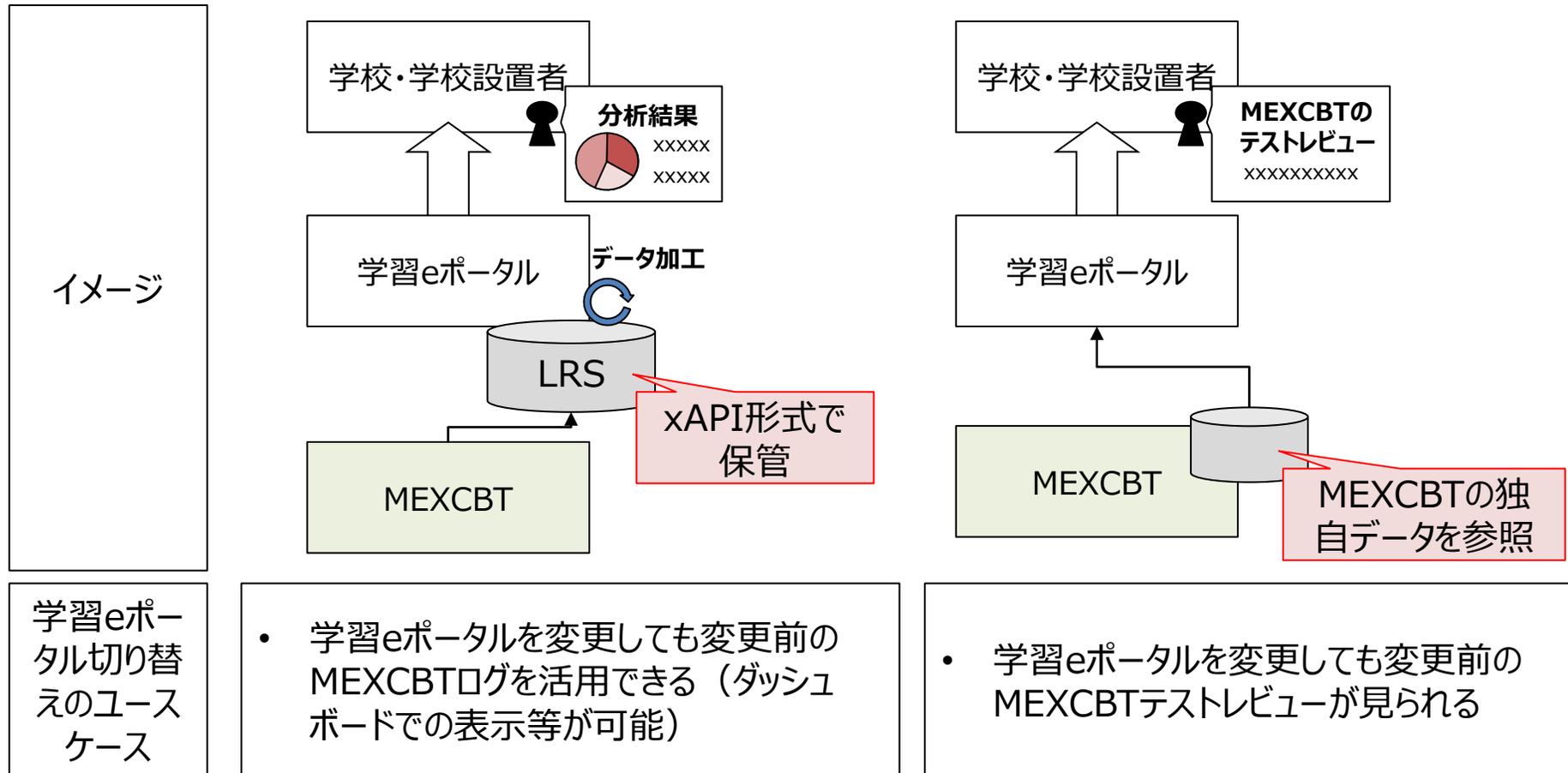


# 学習eポータル切り替えにおけるMEXCBTデータのポータビリティ

学習eポータルを切り替えにおいては①LRSに蓄積しているログ(xAPI形式で標準化)と、②MEXCBTに蓄積しているテストレビューなどのデータ の2タイプのデータを引き継ぐことを検討する必要がある

①LRSに蓄積したログ(xAPI)

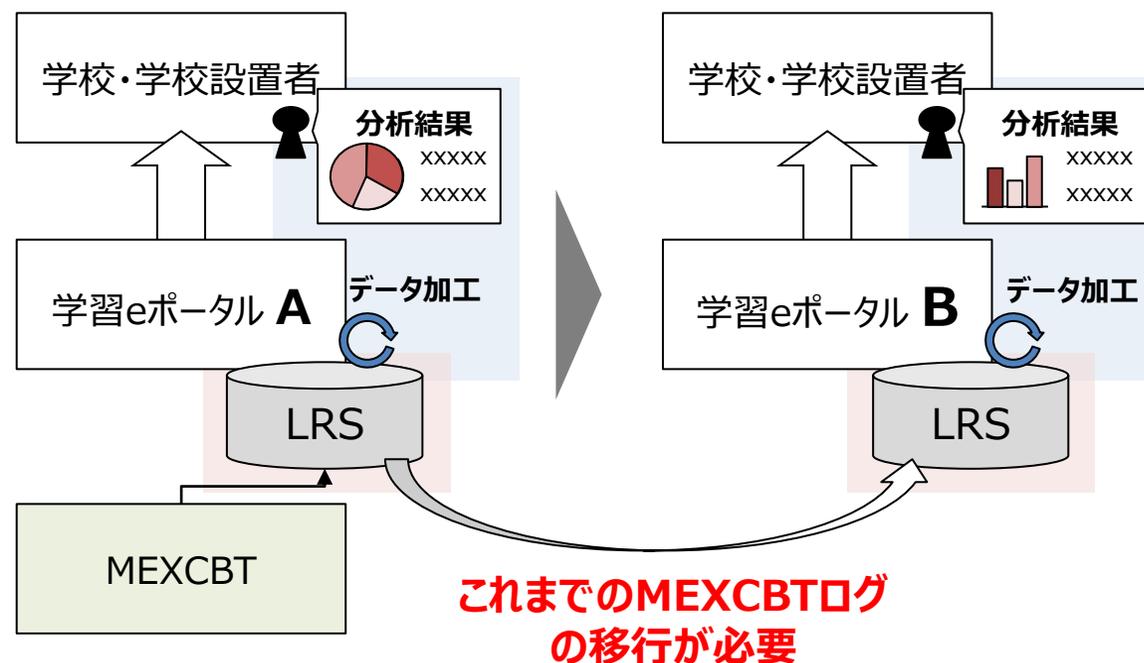
②MEXCBTに蓄積しているデータ



## ① MEXCBT LRSデータの引継ぎ

MEXCBTのログはLRSデータの移行が必要となり、標準化により移行を容易にした。なお、データ分析の見せ方自体は学習eポータル競争領域と考える

学習eポータルAからBへの切り替えイメージ



切り替え前後で同様の分析を見るには？

分析元のデータの移行 ⇒ 協調領域(標準化)

- LRSにためるべきデータを標準化することで、LRSのデータを移行すれば、移行先の学習eポータルもこれまで蓄積したデータを利用可能
- 標準化によりデータ移行における突合作業などを大幅に削減。ただし、データ移行に係る工数や費用は発生

データ加工・分析結果の提供 ⇒ 競争領域

- LRSに蓄積されたMEXCBT/ツールのデータをどう見せるかは、学習eポータル競争領域
- したがって、学習eポータルAからBへの切り替えにおいて、同じ分析画面が見られるわけではない
- 自治体・学校はニーズに合致したサービスへ切り替えることが促進される

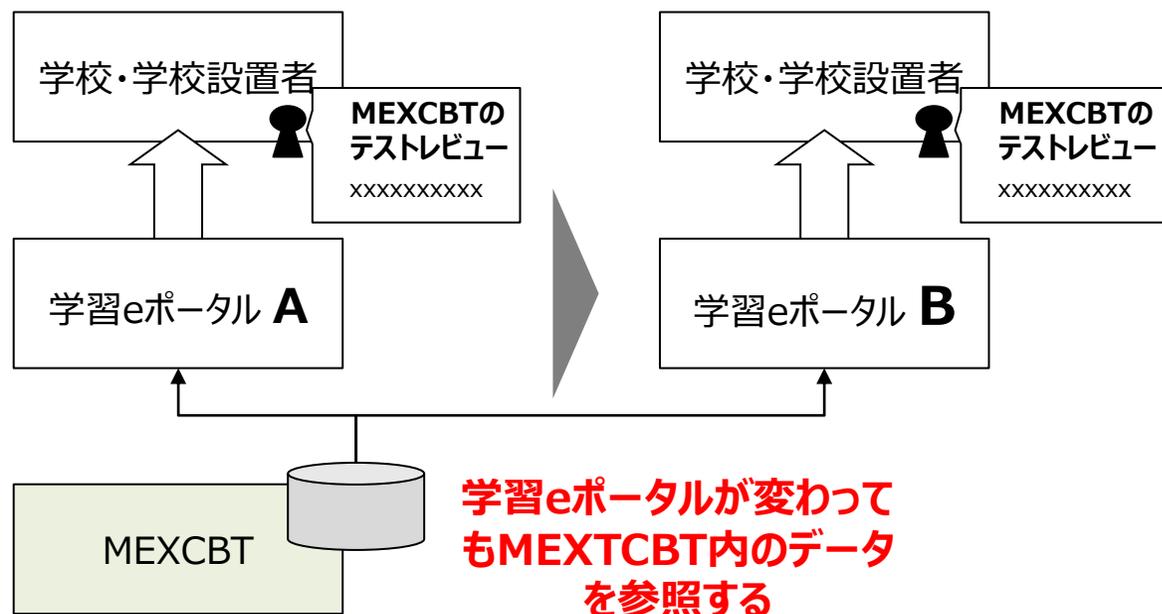
### 課題

- ✓ 現場でのデータ利活用実績が少ない。データ利活用資するログデータが蓄積されているか
- ✓ 移行の観点で、セキュアにデータを移行する方法やルールの検討

## ②MEXCBT テストレビューの引継ぎ

MEXCBTのテストレビューが持つデータは、学習eポータルAからBへの切り替えによってMEXCBT上で管理されるデータへのアクセス権の切り替えなどが必要。引き継ぐニーズを踏まえて今後対応策を検討する必要がある

学習eポータルAからBへの切り替えイメージ



切り替え前後でテストレビューを引き継ぐには？

- 学習eポータルを切り替えても、元となるデータは**MEXCBTが保持**
- MEXCBTがもつデータに対して、**学習eポータルAからアクセスしていたものを学習eポータルBからアクセスできるように切り替える必要がある**
- ただし、**MEXCBTテストレビューの引継ぎがベンダーロックイン抑止に資するかを確認し、アクセス方法の標準化など対応を行うかは検討が必要**

### 課題

- ✓ 切り替えにおいて技術的な制約の検討やセキュリティー面での対応策の検討
- ✓ そもそも、テストレビューの引継ぎがベンダーロックイン抑止に資するか

## ツールについて (参考)

学習eポータルの切り替えにおいて、ツールズについてもLRSに保管するデータについては、データ移行で対応が想定される。また、引続きツールを継続利用するために、変更後の学習eポータルからツールへアクセスできるかなどの確認が必要

ポータビリティを検討すべき範囲と本事業のスコープ

移行情報元	MEXCBT	ツールズ
ユースケース		学習eポータルと接続
学習eポータルの切り替え	○	○
児童・生徒の転出入・進学	○	○

一定の範囲で同様の考え方ができると想定

凡例 ○: 本事業で検討するスコープ

### LRSに蓄積されるデータ (xAPI形式)

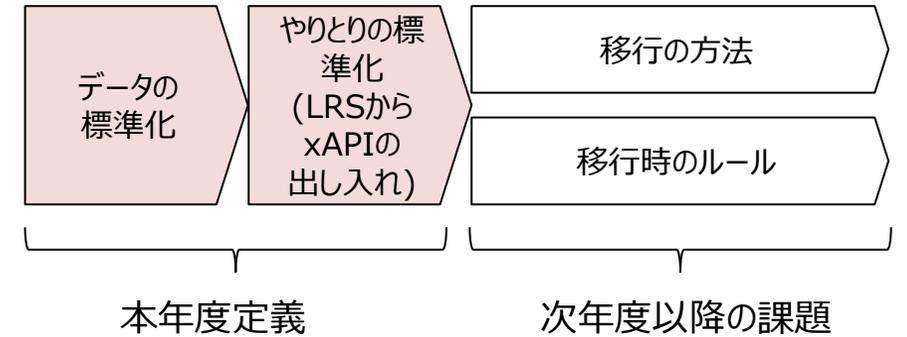
※ツールに関する全てのデータをLRSに蓄積するわけではないことに留意

- 基本的にはMEXCBTと同様に、LRSにためたデータを移行することで、学習eポータル切り替え後もログデータを引き続き使用できる
- 利活用の仕方についても確認していく必要がある

### 独自に持つデータ

- 学習eポータルを切り替えても、ツールが引き続き使用できることが重要
- アクセス権の引継ぎに技術的な課題がないか確認する

- 学習eポータルへの切り替えにおいてはLRSのログデータの移行と、MEXCBTやツールがもつデータへのアクセス権の移行が必要
- LRSのログデータの引き継ぎはこれまでの標準化で容易になっている。今後、データを移行する上で共通で守るべき方法やルールを検討する
- MEXCBT・ツールがもつ独自のデータについては、アクセス権を切替えて技術的な課題がないかを確認していく
- 今後、児童・生徒の転出入・進学の場合においても検討する



## 2. セキュリティの取り扱いについて

## 基本的な考え方

- 全国の児童・生徒が等しく安全・安心に学習eポータルにアクセスできるようクラウドサービスを活用したシステムを念頭に置くとともに、情報漏洩のリスクなどセキュリティ面でも問題ない形で活用できるような環境を構築すべき

## 現状

- 「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（令和6年1月版）」が公開されており、その中でクラウドサービスの利用について規定されている
- 各自治体等は、「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（令和6年1月版）」等に基づき、「教育情報セキュリティポリシー」を策定し、それに基づき製品やサービスを購入・管理している

## 学習eポータル標準におけるセキュリティの取り扱い

- 学習eポータル標準モデルにおいて、セキュリティの取り扱いに関しては「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」および「教育情報セキュリティポリシー」に従うこととし、追加の規定は行わない

学習eポータルに関連するセキュリティについて考慮すべき点など、お気づきの点がございましたら別途ご意見頂きたく、お願いいたします